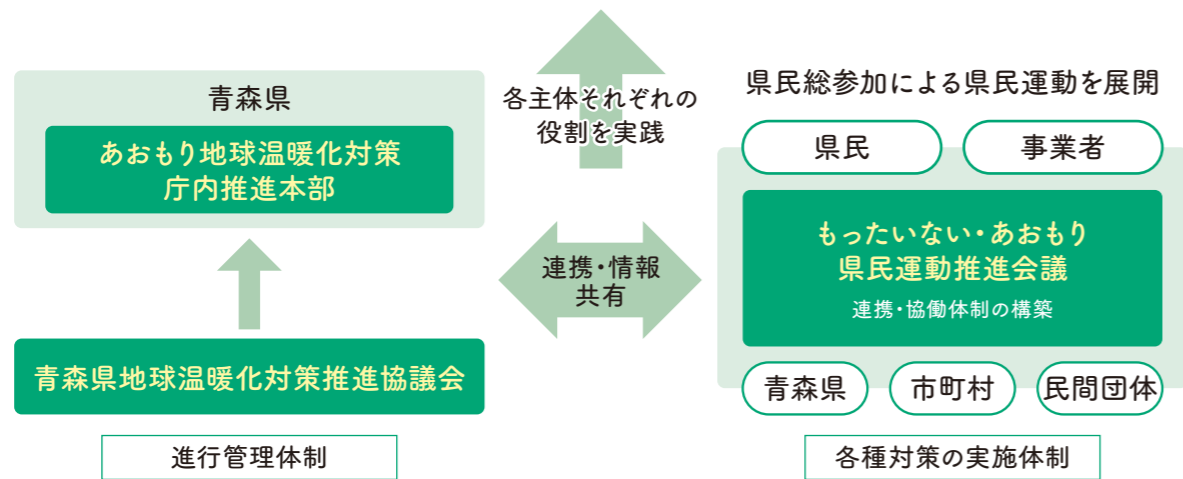


## 『青森県気候変動適応取組方針』の推進

県では、『青森県気候変動適応取組方針』を推進していくため、適応策の取組状況を毎年度把握し、県民、事業者、有識者等からなる「青森県地球温暖化対策推進協議会」において共有するとともに、知事を本部長とする「あおもり地球温暖化対策庁内推進本部」において部局横断的な取組を推進していきます。

また、県民、事業者、民間団体及び行政で構成する「もったいない・あおもり県民運動推進会議」とも連携し、県民総参加による適応を推進していきます。

### 気候変動に適応した強靱で持続可能な社会づくりの実現



### あおもり環境ホームページ「エコ・ナビ・あおもり」

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/kankyo/econavi.html>



こんにちは! エッコーだよ!  
ぼくやばくのお友達がイベント情報や地球に優しい取り組みを紹介しているよ!

Facebook  
エコ・ナビ・あおもり

Twitter  
あおもりのエコ活!

エコ・ナビ・あおもり

あおもりのエコ活

### 気候変動適応情報プラットフォーム(A-PLAT)

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/>

国や地方公共団体の適応の取組、事業者や個人ができる適応策に関する情報を掲載しています。



いのちと暮らしを守る

# 気候変動への「適応」

～青森県気候変動適応取組方針～



発行 青森県環境生活部環境政策課  
〈TEL〉017-734-9243 〈FAX〉017-734-8065 〈E-mail〉kankyo@pref.aomori.lg.jp

新しい未来へ  
今こそアクション!

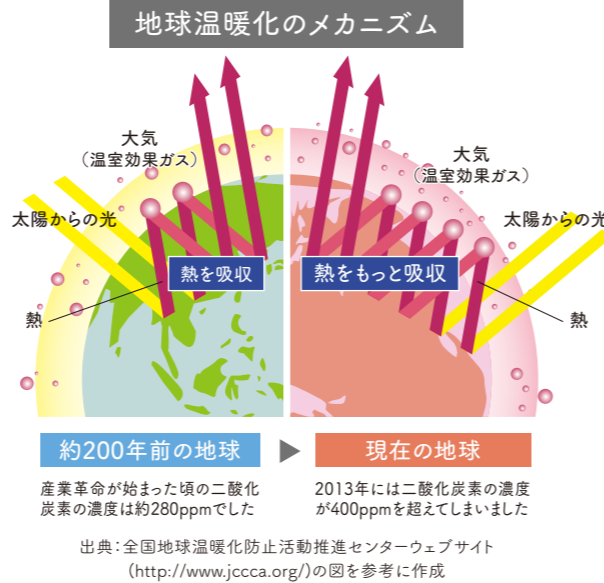
脱炭素チャレンジ 青森

# 「地球温暖化」とは

太陽からのエネルギーは、地表に届いた後、熱として地表から放出されます。その際、大気中にある二酸化炭素などの温室効果ガス\*がその熱を吸収するため、放出された熱の一部は宇宙へ出ていかずに地球にとどまります。もし、熱がとどまらなければ地球の気温は約マイナス19℃になってしまいますが、温室効果ガスが熱をとどめてくれるおかげで、地球の平均気温は生き物が暮らしやすい約14℃に保たれています。

しかし、近年、温室効果ガスの増加などによって地球にとどまる熱が増えてきていて、地球の気温がどんどん上昇しています。これが「地球温暖化」です。

\*温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスなどがあります。



# 気候の現状と将来ありうる気候

2021年8月に公表されたIPCC第6次評価報告書(第1作業部会報告書)によると、「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がなく、大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れている」とされています。

また、将来ありうる気候について、「世界平均気温は、本報告書で考慮した全ての排出シナリオにおいて、少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続ける」、「気候システムの多くの変化は、地球温暖化の進行に直接関係して拡大する」などとしています。

気候の現状	人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れている。
	気候システム全般にわたる最近の変化の規模と、気候システムの側面の現在の状態は、何世紀も何千年もの間、前例のなかったものである。
	人為起源の気候変動は、世界中の全ての地域で、多くの気象及び気候の極端現象に既に影響を及ぼしている。(略)

将来ありうる気候	世界平均気温は、本報告書で考慮した全ての排出シナリオにおいて、少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続ける。向こう数十年の間に二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に、地球温暖化は1.5℃及び2℃を超える。
	気候システムの多くの変化は、地球温暖化の進行に直接関係して拡大する。この気候変動システムの変化には、極端な高温、海洋熱波、大雨、農業及び生態学的干ばつの頻度と強度、強い熱帯低気圧、北極海の海水・積雪及び永久凍土の縮小を含む。
	継続する地球温暖化は、世界全体の水循環を、その変動性、世界的なモンスーンに伴う降水量、降水及び乾燥現象の厳しさを含め、更に強めると予測される。

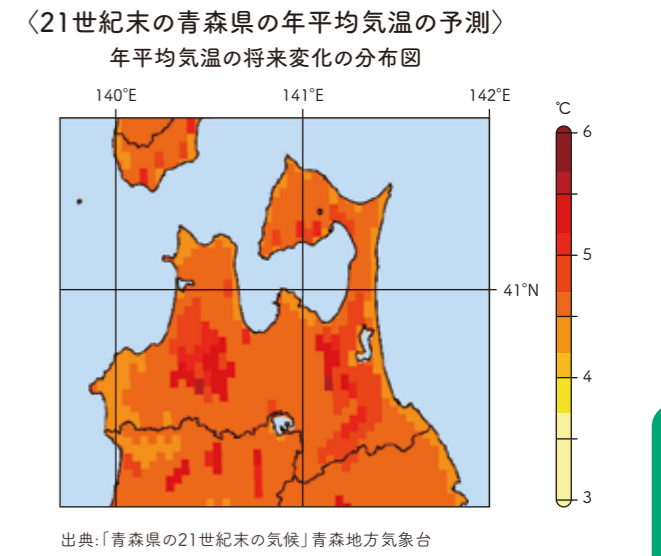
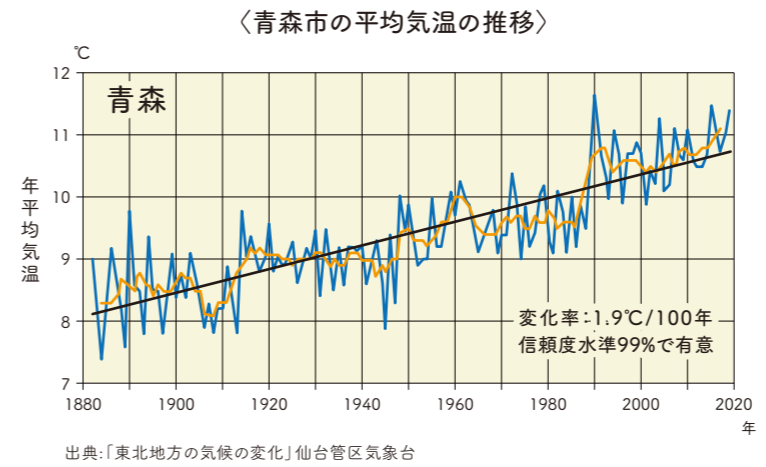
IPCC第6次評価報告書 第1作業部会報告書 政策決定者向け要約(SPM)の概要から抜粋

IPCCについて  
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、各国政府の気候変動に関する政策に科学的な基礎を与えることを目的に1988年に設立された政府間組織です。世界中の科学者の協力の下、出版された文献(科学誌に掲載された論文等)に基づいて定期的に報告書を作成し、気候変動に関する最新の科学的知見の評価を提供しています。

# 青森県の平均気温の変化

青森地方気象台が観測している気象データによると、県内各地(青森市、むつ市、深浦町、八戸市)で気温の上昇傾向が見られ、青森市では100年当たり1.9℃の割合で気温が上昇しています。

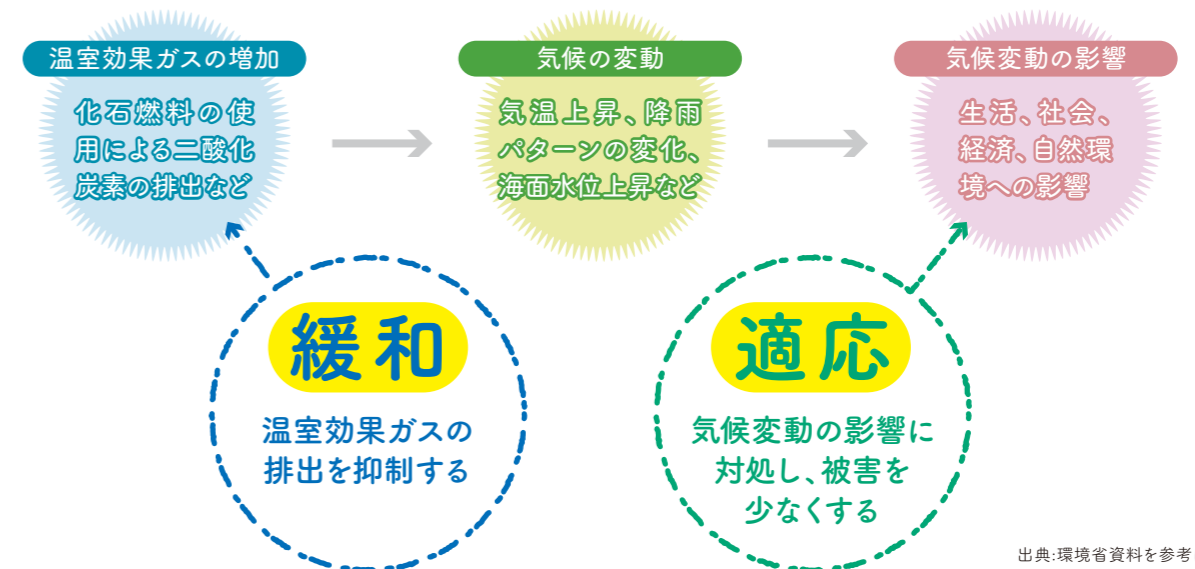
温暖化対策が進まない場合(IPCC第5次評価報告書 RCP8.5 シナリオ)、21世紀末の青森県の平均気温は約4.7℃上昇すると予測されています。



# 気候変動には「緩和」と「適応」の2つの対策が必要です

世界各地で気温の上昇などが起こり、異常気象や自然災害の発生など気候変動の影響が現れています。気候変動は、私たちの食べる物や健康にも様々な影響を与え、その影響は今後さらにひどくなっていくかもしれません。

こうした気候変動のリスクを小さくするため、温室効果ガスの排出を少なくする「緩和」とともに、すでに現れている気候変動の影響や、すぐには避けられない影響に対処し、被害を回避・軽減する「適応」の2つの対策が必要です。



新しい未来へ今こそアクション!

# 気候変動適応に向けた青森県の取組

青森県では、気候変動の影響が既に生じている項目や今後影響が生じると考えられる項目を7つの分野に分けて、その影響の回避・軽減に向けた具体的な適応策について、「青森県気候変動適応取組方針」として整理しています。

## 〈気候変動の影響と適応策に関する7分野〉



## 〈分野ごとの気候変動の影響と適応策(主なもの)〉

分野	小項目	現状・将来予測される主な影響	県の施策における適応の取組方針
農業・林業・水産業	水稻	夏季高温による胴割米の発生	高温耐性品種の開発
	野菜	集中豪雨によるハウス等への浸水等による生育不良や品質低下の発生	営農活動で可能な排水対策技術の開発
	果樹	気温上昇によるリンゴの日焼け果の発生	早期適正着果・適切な葉摘みの実施
	病害虫・雑草	低温寡照によるいもち病や高温性病害虫の多発	病害抵抗性品種の開発拡大・新たな防除技術の開発拡大
	木材生産(人工林等)	森林病害虫被害の発生(松くい虫被害)	本県に適した優良品種、マツ材線虫病抵抗性品種及び育種技術の開発
	回遊性魚介類	産卵場の水温変化によるスルメイカの漁獲量の減少	スルメイカの代替魚種としてのアカイカの効率的な漁場探査手法の開発
	増養殖等	水温上昇によるホタテガイの沖側の深い水深帯でしか養殖できなくなる可能性	高水温時のホタテガイ養殖作業(稚貝分散や入替作業など)の改善
水環境・水資源	湖沼・ダム等	水温上昇による水質悪化の可能性	公共用水域の水質調査
自然生態系	野生鳥獣	ニホンジカなど指定管理鳥獣の目撃数の増加	第二種特定鳥獣管理計画に基づく順応的管理の推進等
自然災害・沿岸域	(共通)	(自然災害全般)	青森県地域防災計画に基づく各種訓練の実施による関係機関との連携強化
健康	熱中症等	熱中症による救急搬送者件数の増加	県立学校の普通教室等への冷房設備等設置
	節足動物媒介感染症	デング熱を媒介するヒトスジシマカの生息域北限の北上	県ホームページでのデング熱に関する情報提供
産業・経済活動	エネルギー需給	台風・集中豪雨等の自然災害を起因とした大規模停電の発生	非常時における電源供給に対応した自立分散型エネルギーシステムの導入促進
	レジャー	自然災害の発生	観光ウェブサイト等を活用した災害情報の発信
国民生活・都市生活	水道、交通等	記録的な豪雨による地下浸透、停電等の発生	浸水対策、停電対策を含めた、計画的な水道施設の強靱化
	県民・事業者等への普及啓発	(適応に関する普及啓発が必要)	県民向け普及啓発パンフレットの作成・配布、イベントの実施 市町村向け適応セミナーの実施

気候変動により、さまざまな影響が生じており、それに「適応」していくことが重要です。



分野	要因	影響	適応	分野	要因	影響	適応
① 農業	高温・強日射	リンゴの日焼け果	日よけで日射を遮る	⑦ 健康	高温	熱中症	適切なエアコンの使用
② 水環境	水温上昇	水質悪化	公共用水域の水質調査	⑧ 健康	気温上昇	病気を運ぶ蚊の棲む地域の拡大	蚊が育つ水場を作らない
③ 自然災害	大雨等	土砂災害の発生	警戒避難体制の整備	⑨ 自然災害	大雨	気象災害被害	天気予報や防災アプリの活用
④ 農業	高温等	コメの品質低下(白未熟粒等)	高温耐性品種の開発	⑩ 自然災害	大雨	洪水の発生	ハザードマップを確認し備える
⑤ 農業	高温等	トマトの実が裂けることで品質が低下(裂果)	遮光・遮熱する	⑪ 自然災害	大雨	河川氾濫	治水安全度を向上させるためのハード整備
⑥ 健康	高温	熱中症	こまめな水分補給	⑫ 水産業	水温変化	スルメイカの漁獲量減少	ICTを活用した情報収集・分析

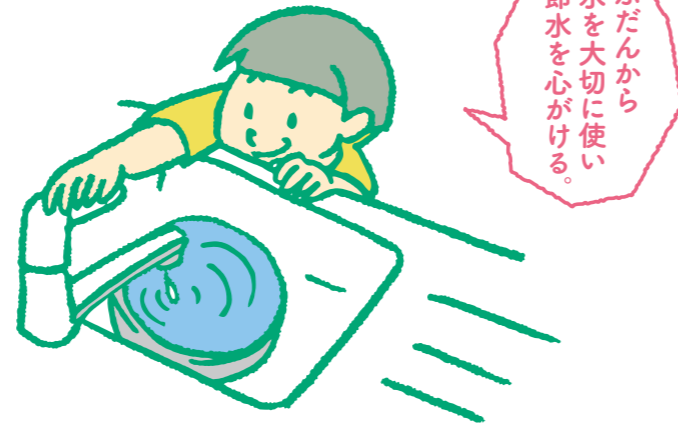
新しい未来へ今こそアクション!

# はじめよう! 個人でできる暮

## 個人が取り組む適応策を紹介

### 水を大切に使う

地球温暖化が進むと、雨が降る日が少なくなると言われています。



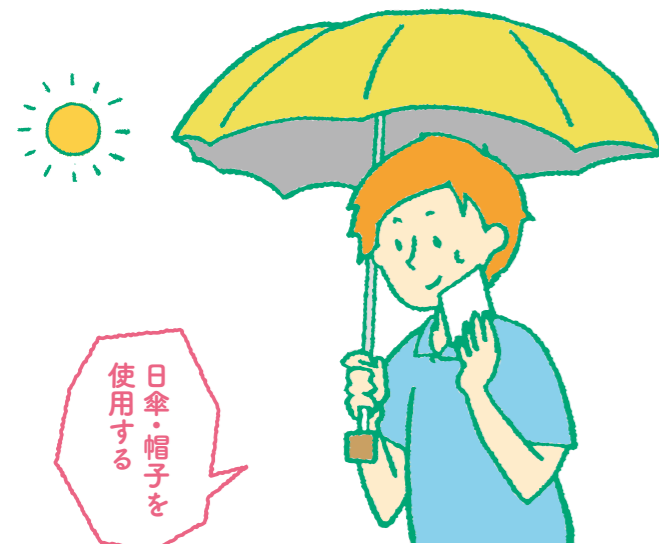
ふだんから水を大切に使い節水を心がける。



水分補給をこまめにする

### 熱中症を予防しよう

地球温暖化が進むと、気温が上がることから、これまで以上に熱中症に気をつける必要があります。暑い日は水をこまめに飲んだり、外に出るときは日傘を差したり帽子をかぶったりして、熱中症を予防しましょう。



日傘・帽子を使用する

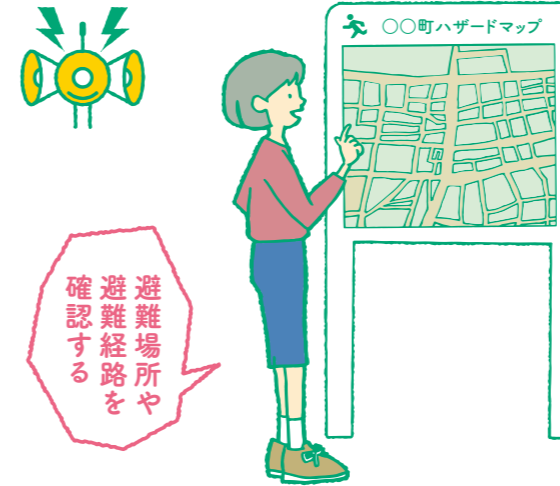


エアコンを適切に使用する

# らしの中での身近な「適応」

## 自然災害に備えよう

雨が降る日が少なくなる一方で、一度に降る雨の量が極端に多くなったり、大型の台風が来る可能性があります。



避難場所や避難経路を確認する



防災グッズを準備する

天気予報や防災アプリを確認する

## 虫刺されに気を付けよう

デング熱という病気を媒介する蚊の棲める地域が北に広がるなど、気温が上がることによって、寒い地域に棲めなかった虫が北上する可能性があります。虫よけスプレー等を活用しましょう。



虫よけスプレーを使用し蚊を防ぐ



蚊の育つ水たまりなどを作らない

これらの他にも適応策はたくさんあります。また、国や地方公共団体が行うものもあれば、企業や個人が行えるものもあります。気候の変化に意識を向けて、いろいろな適応策を実践していきましょう。